

特定非営利活動法人 JIPPO

2017(平成 29)年度 事業活動報告

2017年4月1日から2018年3月31日まで

1. 2017年度を振り返って

2017年度は、母体である西本願寺のJIPPOに対する予算措置が2019年度をもって終了となることを見据え、法人の今後のあり方について将来構想委員会を設け、議論を行いました。JIPPOは仏教の社会貢献を念頭に置きつつ、宗教団体にとらわれない本質的な活動を行い、宗派における国際協力の実施団体として宗教の枠を超えた内外の社会的な貢献を担ってきました。一方で設立当初に目標としていた財政的基盤の確立は思うように進まず、組織として独り立ちするにはフェアトレードを始めとする収益事業の拡充や、会員・支援者の増加に向けた活動が急務となっています。法人のあり方についての議論は次年度も継続し、構造改革を図っていきます。

今年度の海外支援事業はスリランカに絞り、ハンドメイド・ティーの開発支援を本格化させました。これは紅茶を栽培する小規模自営農民の自立を図り地域の茶業を振興することを目的としています。植民地時代から続くプランテーションによる生産とは間逆の村落レベルの新たな試みとして、スリランカ国内でも注目されました。民際協力を推進するJIPPOらしさを発揮し、地域発信型のパイロット・モデル事業になるよう進めていきます。

2. 事業活動内容

(1) 海外支援事業

① スリランカ

事業名	スリランカ ウバ州 ハルドウムツラにおけるハンドメイド・ティー（ワングディ・ペコー）開発事業
実施地	スリランカ ウバ州 バッドウラ郡 ハルドウムツラ地区
期 間	2017年4月1日～2018年3月31日
受益者	地区ウバ紅茶生産者組合 Uva Kuda Thea Wattu Govi Samitiya の組合員 15 世帯および雇用者
内 容	JIPPO は 2013 年に JICA 「次の一步」プログラム助成を受け、ウバ紅茶の小規模自営農民の現状を調査した。小農民は茶に関する知識、栽培技術に欠け、紅茶生産者として非常に脆弱であるにも関わらず、国の農業政策、支援は行き届いていないことが分かった。これを踏まえ、2017年2月、小規模自営農民育成事業として、手づくり紅茶の商品開発支援を開始した。 7月：生産者組合の設立 9月：手づくり紅茶「ワングディ・ペコー（すり鉢紅茶）」の試作開始。製造の様子がスリランカのテレビ局 Ada Dawasa の全国版ニュースで放映される。（ https://www.youtube.com/watch?v=1Sf884e44fQ ） 10月：ワングディ・ペコーの試飲と評価のフィードバックを行うとともに、ワングディ・ペコーを使ったスイーツなどを試作する。

(2) スタディツアーの企画・実施

① スリランカ スタディツアー

「歴史と暮らしに触れる旅～手づくり紅茶とホームステイ」

実施日：8月31日～9月8日

参加者：8名（事務局引率を含む）

大学連携：京都女子大学現代社会学部、龍谷大学ボランティア・NPO活動センター

主な内容：ホームステイ、プランテーション見学、ワンゲディ・ペコーワークショップ、ハプタレー幼稚園での交流、仏歯寺見学、シーギリヤロック登頂。

② ネパールスタディツアー「チベット難民の学校と人権擁護施設を訪ねる」

実施日：2018年3月3日～10日

参加者7名（事務局引率を含む）

NGO 連携：ダーナイターナショナル(DIC) (浄土真宗本願寺派僧侶らで組織するチベット難民を支援する団体)。

主な内容：チベット難民の学校訪問・交流・宿泊、ネパール女性の人身売買およびHIV/AIDS感染者の支援団体の訪問、カトマンズ本願寺表敬訪問。

(3) フェアトレード

ウバ紅茶（スリランカ・ウバ州 ハプタレー市 グリーンフィールド農園）およびカフェ・ティモール（東ティモール マウベシ 生産者組合ココマウ）の販売を継続。

カフェ・ティモールのアイスリキッドコーヒーを試作し、モニタリングを行った。アンケート結果から、味は申し分ないが、値ごろ感を引き出すにはパッケージの付加価値をつけ、贈答向けにした方がよいという意見が多くみられた。

売上額：¥2,326,432.-

(4) 国内災害復興支援（東日本大震災復興支援から事業名変更）

① 菜の花プロジェクト

「オオイチョウ×菜の花オイル 手づくり石けんプロジェクト」

本願寺中央日曜学校にて、子どもたちに東日本大震災の経験を阿弥陀様の教えとともに伝えるイベントを開催。

実施日：10月22日

参加人数：18名（児童生徒10名、大学生6名、JIPPOボランティア1名、職員）

これを機に、オオイチョウ石けんの素地を子ども向けの「手づくり石けん教材」として提供開始。（本願寺新報10月20号掲載）

② 東日本大震災復興支援「福島物産販売」

売上額：¥744,984.-

(5) 国内における貧困者への支援。

① 「第34回全国地域・寄せ場交流会2017京都」の実行委員会参加

実施日：9月16日、17日

場所：関西セミナーハウス

参加者：全国の野宿者の支援団体および当事者約130名。

② 「第23回餅つき大会市」の実行委員会参加

実施日：2018年1月20日

場所：東本願寺前

参加者：京都市内の野宿の当事者や支援者、観光客ら約 200 名。

(6)環境問題に向けた取り組み

フェアトレード事業等における有機農業の推進による環境保全。

(7)啓発活動

- ① 奈良女子大学「異文化理解と国際協力」講義（6月9日）
- ② 神戸龍谷高校「紅茶でつながるスリランカと日本」講義（7月18日）
- ③ 龍谷大学「ボランティア NPO 入門」講義（7月21日）
- ④ 本願寺盆踊り（8月28日、29日）
- ⑤ 第 22 回全国仏教壮年東北大会 記念品の調製（菜の花プロジェクトのパンフレット、菜の花栽培キット）、物産販売（9月2日）
- ⑥ 西本願寺伝灯奉告法要での活動紹介、物産販売等（2016年10月～2017年5月31日）
- ⑦ あすの Kyoto・地域創生フェスタ 出展 活動紹介、物産販売（11月23日）
- ⑧ 本願寺名古屋別院開創 300 年記念行事 出展 活動紹介、物産販売（11月23日）
- ⑨ 本願寺御正忌報恩講バザー、喫茶（2018年1月14日、15日）
- ⑩ Shinarn' s Day いちろく市 出店（2018年2月16日）
- ⑪ 東海教区寺院女性連盟研修会 講演（2018年2月20日）

(8)NGO・NPO、教育機関等との連携

① NGO との連携

【現連携団体】

BNN（仏教 NGO ネットワーク）（本部：東京）
関西 NGO 協議会（本部：大阪）
JANIC（NPO 法人国際協力 NGO センター）（本部：東京）
NPO 法人アージュ（本部：東京）
NPO 法人パルシック（本部：東京）
CODE 海外災害援助市民センター（本部：神戸）
広島日タイ友好協会（本部：広島）
南相馬農地再生協議会（本部：南相馬市）

② 大学との連携

【連携大学】龍谷大学、京都女子大学

【連携内容】スタディツアーの連携、講義等啓発活動、野宿者支援。

(9)情報・広報活動

- ① 本願寺新報への JIPPO 活動紹介寄稿（11月10日付：スリランカ支援事業、11月20日付：オオイチョウ×菜の花オイル 手づくり石けんプロジェクト）
- ② 会報 16 号発行（12月1日）

2. 組織・運営

(1)「JIPPO 将来計画構想委員会」の立ち上げと委員会開催

- ① 第 1 回委員会（4月14日午後 4 時～6 時）
- ② 第 2 回委員会（5月12日午後 4 時～6 時）

- ③ 第3回委員会 (6月2日午後3時～5時)
- ④ JIPPO 通常総会意見交換会 (6月12日午後3時～4時半)
- ⑤ 第4回委員会 (7月10日午後2時～4時半)
- ⑥ 第5回委員会 (7月31日午後5時～6時半)
- ⑦ 第6回委員会 (8月30日午後3時～5時)
- ⑧ 第7回委員会 (2018年2月2日午後4時～5時半)

(2)雇用管理に係る制度の導入と厚生労働省助成金の申請

- ① 人材育成制度の導入 (セルフキャリアドック制度、教育訓練休暇制度)
- ② 雇用管理制度の導入 (評価処遇、健康づくり制度)

(3)理事会・会員管理

- ① 会員継続ならびに会費納入依頼状を発送 (6月28日)
- ② 第1回理事会および第9回総会の開催 (6月12日)
- ③ 第2回理事会 (3月20日)

【会員数】

正会員	134	(個人 125、団体 9)
学生会員	15	(個人 15)
賛助会員	206	(個人 185、団体 21)
合計	355	(個人 325、団体 30)

以 上